



平成25年8月号
発行:二輪草センター

二輪草だより

センターの活動予定

- ◆9月17日 二輪草セミナー開催
- ◆9月下旬 二輪草だより9月号発行
二輪草プラン推進委員会



第18回 二輪草セミナーのご案内
「知っていますか？輝くナースPart II」
 日時:平成25年9月17日(火)12:00~12:45
 場所:病院3階 輸血部カンファレンスルーム
 対象:全職員・学生 ※詳しくは二輪草HPをご覧ください



「日本心エコー図学会男女共同参画委員会企画セッション」参加報告

臨床検査・輸血部 赤坂和美

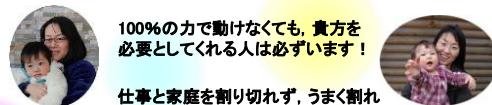
日本心エコー図学会(2013年4月25~27日東京)の男女共同参画委員会企画セッション「ライフイベントを経験しつつ仕事を継続するために:現状と未来への展望」にて、「旭川医科大学さらには北海道における男女共同参画への取り組み」を発表してまいりました。セッションの最初に、男女共同参画委員会が現状・問題点を明らかにするために学会員を対象として行ったアンケート結果について、高野真澄委員長(福島県立医大)より報告がありました。印象的だったことは、仕事を継続できる環境を整備する必要性を感じているのが、決して女性だけではないという点です。「あなたの職場では、育児・介護が理由となり、勤務の継続が困難であると感じたことはありますか(ありましたか)。」の問いに「ある」が全体の30%を占めていましたが、男性医師の26%、男性技師の16%が「ある」と回答していました。また、「自分の、あるいは配偶者の妊娠・出産を契機に勤務体制や業務内容について変更しましたか。」の問いには、「同じ職場のまま勤務時間を減らした、勤務体系を変えた」が男性医師(n=129)の9%、男性技師(n=96)の4%、女性医師(n=55)の49%、女性技師(n=109)の18%、「勤務時間の短い職場に変わった」が各々1%、0%、22%、2%、「専門領域を変更した」が各々0%、0%、5%、4%、「退職した」が各々1%、5%、11%、5%でありました。アンケート結果の詳細は日本心エコー図学会HPの各種委員会から閲覧できます。



赤坂先生

アメリカ心エコー図学会会長のPatricia A. Pellikka先生(Mayo Medical School, Mayo Clinic)のご講演「あなたのキャリアに責任を持つこと:決して早すぎることも遅すぎることもない」は非常に魅力的なものでした。「自分にとって何が大事かは自分にしか答えることができない。」「あなたの人生は一つのものだけに基いているわけではなく、バランスを見つけなくてはならない。」「幅広く手掛けるよりも、ある程度領域を限定することで、容易に進歩することができ、より短期間で専門家となることができる。」と、スマートかつエレガントに話されていました。

私は本学の二輪草センターの今までの活動実績と、その目指すものは女性医療人だけでなく、すべての医療従事者が安心して働くことができる環境づくりであることなどを紹介してまいりました。また、ライフイベントを経験しながら優れた医療・研究・教育活動を継続している、男女共同参画奨励賞の受賞者からの報告もなされました。今年より設けられた奨励賞は受賞者のみならず、男女共同参画の理念に基づいた活動を継続するための環境を整えている所属機関・システムも表彰・広報するものです。セッションに出席し、ライフイベントを経験しつつも仕事を継続できることはもちろん、より高い専門性を維持し、皆がより満足できる人生を送れるようになることが望まれ、そのためには職場環境の整備と当事者本人の意識の高さの両者が必要であると思われました。



100%の力で働けなくても、貴方を必要としてくれる人は必ずいます!

仕事と家庭を割り切れず、うまく割れなかった割り箸みたいに、心がさくさくたつときもあるけれど、周囲の人に支えられて頑張っています!



道北地域で活躍する日本心エコー図学会会員の医師&技師

夏休みキッズスクール終了報告

平成25年7月25・26日に第11回キッズスクールを開催し、総勢24名の子ども達が参加しました。第1日目、午前中は解剖学講座の渡部剛教授が「ひとのからだを知る～骨の模型標本を触ってみよう!」という特別授業を行って下さいました。骨に関する「ほねほねクイズ」からはじまり、「ほねほねパズル」と題して骨格標本を観察しながら実際に個々の骨の標本をひとのかたちと並べました。真剣な眼差しで骨格標本と見比べながら、どこの骨なのかを考え、出来上がった時には大喜びしていました。その後訪問学級のお友達にプレゼントする壁面作りをしました。今回は朝顔の花の中にメッセージを書き入れ、とても夏らしい壁面ができました。午後からはリハビリテーション科の吉田直樹先生が「リハビリってなあに?」という職業体験を行って下さいました。脳梗塞などの病気で食べ物が飲み込めなくなる嚥下障害や、手足の麻痺があった場合、普段の生活に戻る為にリハビリをする必要があることを教えて下さいました。片手を動かさずに衣服を着脱したり、足に装具を付けて歩くなどの体験を通して、身体の不自由な方が居ることや助けが必要なことを学びました。



特別授業

第2日目は午前中、旭川市科学館「サイパル」に行き、万華鏡作りをしました。完成した後に中を覗き様々な模様になるのを見て、とても感動していました。その後、サイパルの常設展示室を見学し、シャボン玉の中に入ったり、無重力になったり、真っ暗な中で迷路をしたりと、普段なかなか出来ない体験を楽しみました。

午後からはぬいぐるみ病院プロジェクトとして、学生ボランティアの皆さんが「血液ってなんだろう?」と題しクイズやゲーム、絵巻芝居などで血液の働きについて教えて下さいました。血液について楽しく理解することが出来ました。

パフェ作りでは、アイスクリームの上にフルーツやクッキー、生クリームなどをデコレーションし、それぞれ可愛い素敵なパフェを作りました。大満足の笑顔でおいしく食べました。

今回は初の試みである「二輪草キッズのテーマ」を歌いました。医学科卒業生の菅原基史先生が作詞し、現医学科6年の佐々木満ちるさんが作曲、振付は皮膚科の高橋千晶先生が考えて下さいました。開校式に佐々木さんと合唱部の皆さんが歌唱指導をして下さり、すぐに覚えた子ども達は、閉校式には素晴らしい歌声とダンスを披露してくれました。

今回も学生ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。お忙しい中、準備から後片付けなどにもお付き合い頂き、子ども達とも楽しく過ごして下さいましたことに心から感謝しております。また、ご協力頂いた各部署の皆様にも心よりお礼申し上げます。



※『二輪草キッズのテーマ』が出来ました
詳細はHPよりご覧いただけます ↓



http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/kids_school/kids_school_song.html

病児一時預かり室・バックアップナース・病後児保育室・カウンセリング相談 【7月20日～8月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	1回	利用回数	1回
バックアップナース	依頼回数	9回	稼働回数	9回
病後児保育室	依頼回数	8回	利用回数	6回
カウンセリング相談			利用回数	1回

* 病児一時預り室・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます



【お問合せ先】旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249

E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp 開設時間8時30分～17時15分